



校
訓

理想は高く
心清らかに

教育
目標

未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい
生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～

あいさつのレベルアップ！



毎朝正門前に立ってあいさつ運動をしておりますが、登校してくる子ども達のあいさつは様々です。にこやかにほほえんで、「おはようございます」と言う子もいれば、ポケットに手を突っ込んで何も言わずに通る子もいます。どちらかという、きちんとしたあいさつができない子が多いようです。

先週あいさつの状況が良くなかったので、さっそく生徒集会の時に「あいさつ」について話をしました。「あいさつ」の大切さと、「あいさつ」にもレベルがあるということ。「あいさつ」がきちんとできる人は好感を持たれ、周りから大事にされ、社会に出てから、特に職場などでも高く評価されるということを話しました。

又、あいさつにはレベルがあるので、私なりに考えたレベルを子ども達に紹介しました。**レベル0**・・・あいさつ無し、**レベル1**・・・相手を見ないで、声を出すだけ、**レベル2**・・・相手の目を見て、あいさつ、**レベル3**・・・相手の目を見て、お辞儀をして、あいさつ、**レベル4**・・・立ち止まり、相手の目を見て、お辞儀をして、あいさつ、**レベル5**・・・立ち止まり、にこやかに、相手の目を見て、お辞儀をして、あいさつ。自分の今のあいさつレベルを振り返って、少しでも向上するように努力していこうということ呼びかけました。

かつての教え子でA君というのがいまして、授業中の態度等もあまり良くなく欠席も結構多かったんですけどね。高校へは行くには行ったんですが中退し、一時は自暴自棄の暮らしをしておりました。しかし、生活していくためには働かなければなりませんので職安（ハローワーク）でなんとか職を求めて働くようになったんですけどね。

彼が働き始めて一番変わったのは、あいさつと言葉づかいです。それまでは先生方や友達に対してほとんどあいさつもしませんでしたし、まともな口をきいたこともなかったんですが、働くことで初めてあいさつや言葉づかいの大切さが分かったのでしょう。彼の話によると、きちんとしたあいさつができないために職場の先輩から叱られ一日で辞めた会社もあったとのこと。ガソリンスタンドに勤めた時は、「こんにちは」「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」を毎日訓練され、自然に声が出るようになってから接客を許されたそうです。

このように、あいさつは仕事の上でも大切なものとして求められるものですから、大人が率先垂範して子ども達に示していきましょう。そして、いつでもどこでも明るくさわやかなあいさつができる子どもを育てていきましょう。「学舎に 明るいあいさつ 響きあう」（校長）